

平成 26 年度鴨川市文化施設運営協議会会議録

日時：平成 27 年 3 月 18 日（水）午後 2 時～ 4 時

場所：鴨川市文化財センター学習室

（出席者）

所属	役職	氏名	備考
鴨川市文化施設運営協議会委員	会長	鈴木 進	
鴨川市文化施設運営協議会委員	副会長	鈴木 啓治	
鴨川市文化施設運営協議会委員		滝口 巖	
鴨川市文化施設運営協議会委員		松本 建一	
鴨川市文化施設運営協議会委員		松本 和子	
鴨川市文化施設運営協議会委員		水上 順義	

（事務局）

所属・職名	氏名	備考
鴨川市教育委員会生涯学習課長 兼 文化振興室長	石井 利彦	
鴨川市郷土資料館長	千葉 和也	
鴨川市教育委員会生涯学習課文化振興室 主査	石川 丈夫	
鴨川市教育委員会生涯学習課文化振興室 主査	畑中 博司	
鴨川市教育委員会生涯学習課文化振興室 副主査	松井 富子	

（資料）

次第、委員名簿、鴨川市文化施設運営協議会設置条例

資料 1 平成 26 年度事業報告、平成 27 年度事業計画

資料 2 「生誕 200 年安房の彫工 後藤義光～鴨川での足跡～」について

資料 3 「よみがえる古墳文化 一房総半島南部の資料を中心に」について

資料 4 「輪廻のラグランジェ」展について

資料 5 「藤澤衛彦コレクション 江戸から明治の木版画」展について

1 開 会 司会 事務局

2 あいさつ 石井課長

3 議 事

正副会長の選任を追加議案として提案し、了承を得る。委員の互選により、鈴木進会長、鈴木啓治副会長を選出する。

鈴木進会長が議長となり、会議次第に沿って議事進行。

議事録の署名人として、水上順義委員を指名する。

(1) 報告第1号平成26年度事業報告について

- ・会議資料及び添付資料に基づいて事務局から説明。

◎意見

(鈴木啓治副会長)

後藤義光には、弟子や孫弟子など、系譜を受け継ぐ彫物大工がいるので、今後も研究を継続して展示につなげていってほしい。天津にあれだけの後藤義光の作品があることも新しい発見であった。田原地区にも屋台彫刻に作品が残されている。私は田原地区で土曜スクールを開催しているが、やはり子供たちに地域の歴史を学んでもらうことも重要だと考える。

古墳の展示は、例えば芝山町の古墳からは多くの埴輪が出土しており、何のために埴輪が製作されたのかがわかるように展示している。芝山町から借用してくることも一つの案である。

入館者が少し減ったようであるが、頑張ってもらいたい。

(滝口委員)

後藤の展示により、広域的に関心が高まっていったので、非常に良い企画であった。地域の文化に対する意識は、まだまだ低いといえるので、市民全体の関心が高まるようにしていかなければならない。鈴木啓治委員も言われていたが、研究を継続してより良い展示にして頂きたい。

(鈴木啓治副会長)

市民の文化財に対する意識を高めるには、郷土資料館や文化施設の果たす役割は大きいと言える。

(鈴木進会長)

市民に対して情報を発信し、理解を深めていくことは文化施設の重要な役割である。ソフト面については、事務局で様々な企画立案をお願いしたい。

(鈴木進会長)

第1号議案平成26年度事業報告については、審議を終了する。

(2) 議案第1号平成27年度事業計画(案)について

- ・会議資料に基づいて事務局から説明。

◎質疑応答

(鈴木啓治副会長)

「鴨川の知られざる仏たち」展、「嶺岡の蛇紋岩」展の開催概要のなかで、発表できる内容があれば、教えて頂きたい。

(事務局 石川)

「鴨川の知られざる仏たち」について説明する。滝口委員も参加されている鴨川市郷土史研究会が、ここ数年市内のお寺やお堂の仏像について調査を継続している。その調査成果がまとまりつつあるため、その中から仏像をピックアップして展示するものである。しかしながら、お寺のご本尊については信仰上の理由などから移動することができないため、展示からは除く予定である。ご本尊以外にも地域のお堂などには、貴重な資料があることを知ってもらう良い機会になると考える。細かい内容については、専門家の助言を得ながら展示構成を考えていきたい。

(事務局 畑中)

「嶺岡の蛇紋岩」展について説明する。嶺岡地域には、火成岩の一種である蛇紋岩層があり、古くは縄文時代のアクセサリに使われたり、中近世の石仏や墓石として利用されている。この蛇紋岩は安房地域だけでなく、県内さらには三浦半島にも流通していたことが推測されており、蛇紋岩がどのように利用されていたのかを展示する予定である。

(鈴木進会長)

嶺岡の蛇紋岩は、子供のころに嶺岡山にトロッコが引いてあり、緑がかった石という記憶がある。展示を期待している。

(鈴木啓治委員)

仏像展は、今まで陽の当らなかつたところといえる。各地域では昔から仏像を拝んでいるので、この展示についても、今後計画を立てて継続的に研究に取り組んで頂きたい。蛇紋岩は、知らない人も多いと思うので、良いところに目をつけたといえる。

(鈴木進会長)

郷土史研究会の素晴らしい研究成果を、うまく活用してほしい。

(鈴木啓治副会長)

歴史教室についてであるが、夏休みや春休みを活用して中学生を対象に実施してほしい。

(滝口委員)

7月から実施予定の「戦後70年～鴨川と戦争～」であるが、非常に興味深い展示設定をして頂いた。戦争などの歴史の記憶は風化させてはいけない、残していかなければならないものである。最近では戦艦武蔵が見つかったことなどもあり、戦争遺跡はまだ残っているの、どのような点に焦点を当てるのか期待している。

蛇紋岩展については、一戦場にある馬頭観音や、ほかにも五輪塔などたくさん利用されている。地質学的なアプローチや民俗学的なアプローチ、長狭米がなぜおいしいのかなど様々な角度から取り組むことができる。上総国分寺の礎石にも使われているので、この地域の特色のある文化というものが、わかってくるのではないかな。

子供たち向けなどの体験教室は、見たり聞いたりするだけではなく、もっと突っ込んだ

取り組みをしてほしい。この事業は資料館で今後力を入れて取り組むべきものであると考える。

また、収蔵している資料についても、積極的に公開して交流センターとしての機能を発揮して頂きたい。

(鈴木進会長)

戦後70年展であるが、数日前にTBSテレビで太海駅周辺の爆撃映像が放映されていた。鴨川駅では、トイレに入っていた人が銃撃を受けて亡くなったり、長狭高校の剣道場に弾痕が残っていたりするなどしていたが、今は建物を取り壊してしまい残っていないので、そのような記憶についても記録として残して頂きたい。

(滝口委員)

質問ですが、アート鑑賞ツアーについて教えて頂きたい。

(事務局 畑中)

各委員の話にもあったが、本市では文化に対する意識がまだまだ低いといえる。このツアーでは、市民の芸術文化に触れる機会を設け、都内等で開催される美術展や演劇等の鑑賞するものである。

(鈴木啓治副会長)

今後波の伊八については、どのような取り組みをしていくのか。

(事務局 石川)

伊八については、調査研究の中で新しい事実や発見が判明した際に、何度か資料館で展示を行ってきた。今後も研究が充実した際には、展示に取り組んでいきたい。しかしながら、後藤の作品も同様であるが、通常建物に取り付いているものなので、どの程度展示に適した作品を収集できるのかが課題である。また、研究成果については、解説講座や、公民館等の講座で市民に還元していきたい。

(鈴木啓治副会長)

伊八や後藤には、2代目3代目や弟子がいるが、その研究についてはどう考えているか。

(事務局 石川)

様々なテーマで取り組むことができるので、初代の研究を深めていく中で、取り上げていきたい。

(鈴木進会長)

そのほかにはないので、ここで質疑を終了する。

これより採決に入る。賛成の方の挙手を求める。

(全員賛成)

議案第1号平成27年度事業計画（案）は可決された。

以上で予定されていた議事はすべて終了した。議長の任を解かせて頂く。協力に感謝する。

4 その他

（事務局 畑中）

その他に何かあるか。

（鈴木啓治副会長）

1点目として市内の文化財、例えば大山寺の不動堂や滝山寺の薬師如来像などの傷みがひどくなっている。文化財の保護についてどのように考えているか。2点目、伊八の本を執筆していると伺ったが、いつごろ出版の予定であるか。3点目、市民ギャラリーの代替施設として曾呂小学校を検討していると話を聞いたことがあるがどうか、以上3点について伺いたい。

（事務局 石川）

文化財の管理保存については、文化財保護審議会の意見を参考にしながら、どのように取り組んでいったらよいか検討している。文化財は、指定されたものだけでなく、そのほかにも多くの文化財が地域に残されている。これらの文化財を一様に取り扱うことは困難であるため、地域の方々に文化財に対する理解を深めてもらうようにしていくことが行政に求められた役割だと認識している。また、委員の発言のとおり年を追うごとに文化財が傷んできていることは事実であるため、地元や管理者とも話し合いながら対応策を練っていきたい。

（鈴木啓治副会長）

大山不動では、地元が中心となってお金を集めようという動きがあると聞いている。失われてしまえば元に戻らないものなので、市民への啓蒙を図って頂きたい。

（滝口委員）

雨漏り、白アリ、盗難や火災など文化財には様々な問題が発生するという事も念頭に置いてほしい。

（松本建一委員）

地域に文化財の管理について関心のある人がいないといけない。行政にばかり依存しては先に進まないで、自分たちで後世に伝えていくことが重要である。

（滝口委員）

行政がどのように関わっていくのかは難しい問題である。寺社が単独で維持管理していくのは困難になってきている。

(事務局 畑中)

地道な作業になるが、地域の方々に貴重な文化財が残されていることを知ってもらうような努力をすることが行政の果たす役割だと考えている。

(事務局 石川)

2点目の質問であるが、正確には私個人ではなく、「安房茶論」という組織で伊八を広く知ってもらおうという趣旨で出版する予定がある。伊八の研究について様々な情報が蓄積されてきているので、最新の情報を反映させ、一般の方々に伊八の実像を知ってもらうものである。出版の時期については、まだ何とも言えない段階であり、鋭意取り組んでいるところである。

(鈴木啓治副会長)

私は地区の改良区の役員であるが、農道やため池の補修には、市から補助金が出る。文化財についても、補修をしたら5%や10%の補助を出すようにしたらどうか。

(事務局 石井課長)

3点目の市民ギャラリーの移転計画についてであるが、そのこと自体は決定事項ではなく、白紙の状態である。その中で、現在小学校の統廃合が進められており、この4月から江見、太海、曾呂小学校が統合して、旧江見中学校の跡地に新江見小学校が開校する。3つの小学校が空き校舎になるだけではなく、旧主基小学校も含めて4つの小学校が遊休施設となっている。この遊休施設の活用方法については企画政策課が一元的に検討している。基本的には地元の要望を踏まえながら活用方法を決めていくものであるが、難しい場合には市から提案をしていくこともある。現時点では、ギャラリーの移転を決めたという状況ではなく、4月以降に遊休施設全体の中で議論が進められていく予定である。

(水上委員)

事業報告を見ると、たくさんの事業を実施しているが、私自身は4つほどしか見ていない。この委員を引き受けてから、気をつけているつもりであったが、やはり、もう少し広報に工夫が必要である。例えばNHKFMには市町村の情報を発信するコーナーもある。

企画の立案には苦勞していると思うが、企画案のデータベース化を図って頂きたい。このデータベースがあると、事業を計画する際には非常に役立つものである。市民からの情報提供や独自の研究を盛り込んで頂きたい。

外部の歴史団体など同様の目的や理念を持つ団体とも連携を図る必要がある。

(滝口委員)

先月、文化遺産を活かした地域活性化実行委員会主催で、文化財の保存や活用について、ワークショップが行われた。鴨川市の新しい総合計画についての発表があったが、郷土資料館が文化や文化財に対する施策について、現段階で分かっていることあれば教えて頂きたい。

(事務局 畑中)

2月のワークショップでは私見として意見を述べた。第2次5か年計画では、将来像として「自然と歴史を活かした観光・交流都市」を掲げている。次期総合計画においても、文化・文化財が大きな項目として取り扱われるものと考えている。長期的な視野に立って策定するものであるため、文化振興室としても今後どのように文化・文化財施策を進めていくのかを十分に検討し、市民の方々にわかりやすい内容にしていきたい。

(鈴木啓治副会長)

5か年計画については、しっかりと総括をして頂きたい。

(事務局 畑中)

5か年計画については、計画の執行状況についてとりまとめを行い、市のホームページで公開している。当然、現在の5か年計画についても総括する予定である。

(鈴木啓治副会長)

例えば嶺岡牧についても、坂東の石井家文書や史跡を文化財に指定するのかどうか、全く進んでいないのではないか。

(事務局 畑中)

嶺岡牧などの文化財指定については、文化財保護審議会もあるので、その中でも検討を進めていきたい。

(事務局 畑中)

事務局から2点報告がある。

市民ギャラリーで、昨年12月にサッシ廻りの漏水補修工事を実施した。一昨年の夏にも屋上の防水シートの修繕を実施している。建築から60年を過ぎているため、いずれ移転を含めた問題を検討する必要があり、この審議会においてもご意見を頂戴したいと考えている。

2点目は、例規の改正についてである。1つは休館日を臨時的に開館できる規定、もう1つは祝日の翌日が休館日であったが、連休になる際は連休が明けた日を休館日とするように規定を改正したものである。

5. 閉会 事務局

以上で平成26年度鴨川市文化施設運営協議会の会議を終了する。

鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領第7条第3項の規定により議事録を確認
します。

平成27年3月31日

会議録署名人 水上 順義